福島民友　2023年(令和5年)12月13日（水曜日）

背骨治療装具を開発

会津医療センター教授と2社

目立ちにくく着脱簡単

10代女性に多い病気

福島医大会津医療センター整形外科・脊椎外科学講座の白土修主任教授らは、背骨が左右に曲がる病気「脊柱側彎症」を治療するための装具「スコリオフィット・ブレース」を開発した。

医療用装具などを扱う東北補装具製作所（福島市）、日本シグマックス（東京都）と共同開発した。治療対象は脊柱側彎症のうち、原因不明で10代の女性などに多く見られる「思春期特発性側彎症」。症状が体の成長に大きな影響を与えるため、体を固定する装具で背骨の曲がり具合を抑え、将来的に外科手術が必要になるのを防ぐ。

装具はこれまでも開発されていたが、骨盤から上半身までを覆うものだったため「（若い患者は）周りの目を気にして着けてくれない。装着を勧めると泣き出す子どももいた」（白土主任教授）という。装具の上に服を着たとしても目立ち、子どもにとっては装着のハードルが高かったことから、白土主任教授が両社に協力を呼びかけ、目立ちにくい装具の共同開発に着手した。

2017年から6年を費やして開発した装具は、治療効果はそのままに、従来よりプラスチックや金属などの硬い素材を大幅に減らし、骨盤全体を覆うパーツも取り除いた。従来品に比べて人目に付きにくく、着脱や締め具合の調整も簡単なため、長時間の装着が見込めるという。治験に協力した東北補装具製作所の義肢装具士、阿部真典さんは「（新装具により）装着を拒む子どもが少なくなった」と手応えを感じている。

装具は医療機関向けに販売され、患者に処方される。ただ、症状によっては処方されない場合があり、白土主任教授は「専門の医療機関を受診し、適切な治療法を選択してほしい」と呼びかけている。

白土主任教授らが新たに開発した装具「スコリオフィット・ブレース」

従来の装具